

公共施設ロビー展示（10月～12月）

展示者の都合により開始日・終了日が変更になる場合があります。新川・大浜・棚尾公民館は月曜日も開館します。

ところ	10月	11月	12月
新川公民館 ☎41-2103	植物画 (ボタニカルアート彩画クラブ)	干支の手工芸 (月曜会)	革工芸 (レザークラフトシルク)
中部公民館 ☎42-8266	リフォーム作品 (弥生会)	パッチワーク (奥谷千里)	フラワーアレンジメント (五十嵐名保美)
大浜公民館 ☎42-1182	押し絵 (つばき会)	七宝焼 (グループ釉)	己書作品 (高橋愛)
棚尾公民館 ☎41-0892	陶芸 (加藤真誠) 陶芸 (杉浦長次)	陶芸 (石川文雄) 陶芸 (杉浦長次) 衣類のリフォーム (弥生会)	陶芸 (杉浦勝) クレイフラワー (有永慈子) 衣類のリフォーム (弥生会)
日進公民館 ☎48-2678	木目込み人形 (木目込み人形教室)	パッチワーク展 (クローバー)	PLAY ～わきでる個性～ (ARTIST JAPAN)
鷺塚公民館 ☎48-5412	手工芸 (リフォームの会)	筆ペン作品 (あじさいの会) 己書作品 (己書四つ葉道場)	押し絵 (つばき会)
農業者コミュニ ティセンター ☎42-5888	写真 (碧南工科高校写真部)	西端自主防災会 (写真・資料)	押し花 (よもぎ会)

碧南の歴史へのいざない

文化財課内市史資料調査室 ☎41-4566

No.105 水辺の記憶 (4) 江戸時代の新田開発

江戸時代は日本中で新田開発が盛んに行われ、碧南市域でも十七世紀半ばから市の東側で開発が始まりました。

この辺りは、江戸時代初期までは三河湾に面した磯と入り江でしたが、慶長九年(一六〇四)に矢作川の流路が整備され、米津に新たに河口ができること、大量の川砂が流れてきて、鷺塚、さらにその南に堆積していき

ました。陸続きになった米津から鷺塚にかけて堤防が築かれ、その奥の入り江は油ヶ淵になりました。また風光明媚な良港として有名だった鷺塚も砂がたまり続け、海運業に支障が出始めました。

このように砂浜化が進む中、寛文六年(一六六六)、江戸の豪商伏見屋は、一帯の開発の許可を幕府に願いました。油ヶ淵から大浜村の東にかけて排水路を作り、淵の周囲に「池廻り伏見屋新田」を、鷺塚の南、東浦の海に面して堤防を築き、「海表伏見屋新田」を作りました。排水路は今の蛸川です。

矢作川が天井川となり、排水機能が衰えたため、衣浦側に排水する新川を開削しました。海表は大雨のた

めに堤防が決壊して水害が起きました。伏見屋は対応する資金を調達できず、後の経営者も次々と交替しました。しかし、そこに暮らす人々

はあきらめません。幕府の指導により、堤は江戸の加田屋藤五郎が資本を投じ、新川は池廻りの八ヶ村が組合を作って管理を行いました。

伏見屋外新田の完成は寛延三年(一七五〇)です。



△前浜新田の松並木。昭和15年(1940)農地解放を記念して植えられた。北に傾きながら潮風に耐える。令和5年撮影

前浜新田は、文政十一年(一八二八)に完成しました。ここは、伏見屋新田の大地主二人と大浜村・棚尾村が共同開発した新田です。棚尾村庄屋の齋藤倭助が周辺地域の利害調整に尽力し、地元民が力を合わせて作り上げました。

倭助は、人間だけでなく開発の犠牲者として海浜の生き物までを思い、供養のために平等寺を開きました。海辺の干拓地は塩分が多く、手をかけ続けなければ田にも畑にもならない大変な土地であったことも心に留めておきたいことです。